

ヨナを愛される神

ヨナ書 3 : 10 ~ 4 : 11



司祭 ヨハネ 井田 泉

2017年9月24日
聖霊降臨後第16主日

奈良基督教会にて

今日の旧約聖書は、ヨナ書という預言書の最後のところでした。ヨナ書は預言書には数えられているのですが、内容はまるで小説のようです。あらすじをたどってみることにします。

主なる神はヨナに命じて言われました。

「さあ、大いなる都ニネベに行ってこれに呼びかけよ。彼らの悪はわたしの前に届いている。」ヨナ 1:2

ニネベは古代アッシリア帝国の都です。今のイラク北部。チグリス川のほとりの大都市でした。そのニネベの悪は甚だしく、これ以上放置できないと思われた神は、ヨナをニネベに遣わして、神の審判が迫っていることを伝えさせようとされました。

ところがヨナは、ニネベとはまったく反対の西のかなた、スペインのタルシシュ行きの船に乗り込みました。神さまから逃げたのです。

ところが船はまもなく大嵐に見舞われました。船乗りたちは恐怖に陥り、積み荷を海に投げ捨てて、何とか少しでも船を軽くしようとしませんが、どうにもなりません。どうして、だれのせいでこの災難がふりかかったか、くじを引くことになりました。ヨナが当たりました。皆がヨナに詰め寄って問いただします。ヨナは言います。

「わたしはヘブライ人だ。海と陸とを創造された天の神、主を畏れる者だ。」1:9

ヨナは自分のことを「主を畏れる者だ」と言いつつ、主から逃げているのです。

海はいよいよ荒れてもう助かる見込みはないと思われたとき、ヨナは「自分を捕らえて海に投げ込め」と言います。このままでは助からない。乗組員たちは、ついにヨナを海に投げ込みました。すると、荒れ狂っていた海は静かになりました。

神は、巨大な魚に命じて、ヨナを呑み込ませられました。ヨナは三日三晩、魚の腹の中に閉じ込められました。暗黒の恐怖の中で、ヨナは神に向かって叫びます。

「あなたは、わたしを深い海に投げ込まれた。……

わたしは思った、あなたの御前から追放されたのだと。……大水がわたしを襲って喉に達する。深淵に呑み込まれ、水草が頭に絡みつく。

わたしは……地の底まで沈み、地はわたしの上に永久に扉を閉ざす。……

息絶えようとするとき、わたしは主の御名を唱えた。」2:4-8

神が命じられたので、魚はヨナを陸地に吐き出しました。

三日三晩の暗黒の中から主に向かって祈り叫ぶことによって、ヨナは造り変えられました。主から逃走するヨナではなく、主に従うヨナが誕生したのです。

主が再びヨナに命じてニネベに行くように命じられると、ヨナはそれに従います。神の審きを、悪に陥っているニネベに告知したのです。

「あと四十日すれば、ニネベの都は滅びる。」 3:4

しかしヨナは、どうせニネベの人々は悔い改めないだろうと思っていました。神に従う者として造り変えられたヨナですが、愛の人になった訳ではありません。ニネベに対する嫌悪と憎しみは強く、ニネベは神によって滅ぼされてしまえばよいと思っているのです。

ところが意外にもニネベの人々に悔い改めが起きました。ニネベの人々は悪の道を離れ、不法なあり方を捨てたのです。そこでこう書かれています。

「神は……彼らが悪の道を離れたことを御覧になり、思い直され、宣告した災いをくださのをやめられた。」 3:8-10

これに対してヨナは激しく憤りました。ヨナは神がニネベを滅ぼされることを願っていたのに、神はニネベを赦してしまわれた。神は優しすぎる！

神はこのヨナを叱りつけたりせず、ヨナの心に語りかけられます。

「お前は怒るが、それは正しいことか。」 4:4

ヨナは憤りのあまり神に答えようとしません。

ヨナはニネベの都を出て、東の山に小屋を建て、そこからニネベの町を怒りをもってにらみつけます。しかしものすごく暑くてたまりません。

「すると、主なる神は彼の苦痛を救うため、とうごまの木に命じて芽を出させられた。とうごまの木は伸びてヨナよりも丈が高くになり、頭の上に陰をつくったので、ヨナの不満は消え、このとうごまの木を大いに喜んだ。」 4:6

神は、このヨナを愛しておられるのです。神がヨナの気持ちをわかってくださり、暑さを防いでくださったことから、ヨナの不満は消え、なだめられました。

ところが翌朝、神は虫に命じてとうごまを食い荒らさせたので、とうごまの木は枯れてしまいました。神はさらにヨナを苦しめられます。太陽はヨナの頭に照りつけ、焼けつくような東風に吹きさらされて、ヨナはぐったりとなり、憤りのあまりにこう言います。

「生きているよりも、死ぬ方がましです。」 4:8

神はヨナに言われます。

「お前はとうごまの木のことと怒るが、それは正しいことか。」
彼は言った。『もちろんです。怒りのあまり死にたいくらいです。』 4:9

ヨナ書は次のような主の言葉で結ばれます。

「すると、主はこう言われた。『お前は、自分で労することも育てることもなく、一夜にして生じ、一夜にして滅びたこのとうごまの木さえ惜しんでいる。それならば、どうしてわたしが、この大いなる都ニネベを惜しまずにいられるだろうか。そこには、十二万人以上の右も左もわきまえぬ人間と、無数の家畜がいるのだから。』」 4:10-11

神はニネベの人々を惜しまれました。道理をわきまえた人間ではなく、「右も左もわきまえぬ人間」。しかし神はその人間が滅びることを願わないのです。

ヨナ書は物語として読むのがよいと思います。そこから何か教訓を得ようと急ぐべきではない気がするのです。しかし今日のはあえて、このように受けとめたい。神さまは、このようにし

てヨナを教育し、育てられるのだ、と。

第1段階。神はヨナを祈る人とされました。神から逃げたヨナを、神は大きな魚に呑み込ませられた。暗黒の恐怖の中で、ヨナは神に向かって叫び、主の名を呼びました。彼は神に祈る人、神の救いを求める人となった。それまでは神に背を向けていたのに、神にまっすぐに向き直って神を呼びます。そのように主はヨナを教育し、造り変えられたのです。

第2段階。救われたヨナは、神に従う者となりました。ニネベに行って主の言葉を宣べ伝えました。従順にして勇氣あるヨナの誕生です。しかしまだ神さまの教育は終わっていません。彼の中にある憎しみ、憎む相手の滅びを願う暗い火が、なお彼の中で燃え続けています。

第3段階。神はヨナの憤りを受けとめ、彼の暑さの苦痛を救うためにとうごまの木を生えさせ、陰を作ってヨナを助けられました。しかし翌日、とうごまの木を虫に食い荒らさせて、再び彼を暑さにさらされました。

「怒りのあまり死にたいくらいだ」

とヨナは言います。しかしニネベの人々を惜しまれた神は、ヨ

ナを愛しておられました。人を憎み、人の滅びを願う人間のままとどまってはならない。祈りの人となり、さらに人を愛し人を生かす人になってほしいのです。

しかし神は強制せず、繰り返し呼びかけ、働きかけてヨナを待っておられます。

ヨナを愛された主は、わたしたちを愛しておられます。

わたしたちは完全なクリスチャンではありません。欠点と失敗だらけの人間です。しかし神さまはこのわたしたちを愛して、わたしたちを人として、クリスチャンとして育てくださるのです。

神さまはわたしたちにも働きかけ、わたしたちを神に向かう人、祈る人、人の滅びを願わず人を愛し人を生かす人となるように、忍耐強く働きかけてくださいます。

神さま、どうかわたしたちを見捨てず、みそば近くに引き寄せて育ててください。わたしたちの経験する課題や困難をとおして、わたしたちを祈る人、あなたに従う者、また人を愛し生かす人としてください。主イエス・キリストによってお願いいたします。**アーメン**